

1. 日 時 平成18年9月12日(火) 5校時
 2. 学 級 3年5組 男子20名 女子15名 計35名 北校舎4階 第一美術室
 3. 題 材 「十五歳の私」を描こう
 4. 題材について

自画像とは、外面的な自分の姿を描くことを通して、自己の内面性を見つめ直し、そこにある悩み、喜び、苦しみ、悲しみ、決意、希望、夢などのおもいを、線や色、筆触(タッチ)や背景、構図などの造形要素にて表現するものである。多くの画家が描いてきたこの自画像という題材は、作者のその時々での自己の在り方を、自分とは何かを確かめるべく描き止めてきたものであり、自画像を描くということは、自己の内面性を追求し自己の存在とその意義を確かめることである。また、自分自身を深く振り返るといふことそのものであり、人間としての自己の存在そのものを考えることにもつながる。自画像を描くということは、自己の探求そのものであり奥が深く難しいことではあるが、自我に目覚め、進路選択が間近に迫ったこの中学三年生15歳というこの時期だからこそ、自画像を描くことで自分の内面を見つめなおし、振り返ることは価値のある題材であると考えられる。

生徒は、4月はじめは形として最高学年としての3年生にはなっていないが、この自画像の学習に入った段階では、まだ個々に中学3年生15歳ということに内面的に実感をもてない様子があった。4月に修学旅行を体験し、5月は最上級生として様々な立場で下級生をリードし中学最後の体育祭を成功させ、部活動では市中総体や県大会を終えて多くの生徒が事実上の引退し、2学期に入って現実的に進路選択を考えるようになり、ようやく内面的にも3年生になったという実感を持ち始めてきている様子がある。学級全体としては、年度初めは、発言や行動に消極的な生徒が多く、美術の学習に対する意欲は高いとは言えなかったが、描画学習の総まとめという段階で、自分がとらえる自己のイメージを確かなものにしようとする意欲的に取り組む生徒が徐々にふえてきた。中には、描写力に優れ、得意教科としている生徒も数人いるが、その反対に表現意図が浅く構想が深まらず具体的に描けていない、あるいは以前から描画の学習に対して不得意であると固定した課題意識をもっているものもいる。全体としては生徒のほとんどが本制作の終盤に入り、まとめ彩色に入っている段階ではある。しかし、この段階においても全体の色調はどうまとめたらよいか、表現意図にせまる視線や表情のあり方、背景の工夫はこれでよいのだろうかといった、いくつかの疑問点や課題意識を個人レベルで持ち始めている状況にある。

本来、自画像という題材は、自己の内的と向き合い黙々と描き、個人に帰結するものであるという印象がある。しかし、本時では、生徒個々が抱えている課題の解決への糸口を見つけさせるために、小グループ(生活班を基本とした4人~3人)で相互鑑賞の場を設定し、完成に向けた制作上の課題、特に表現意図と色調のありかたなどについて意見交換をさせ、他者とのかわりを意図的に行わせ、生活の様々な場面において周囲と支え合いながら頑張っている自己の存在を認識させるとともに、相互のよさや表現の工夫等を教え合い認め合う活動に取り組みせ仕上げに向けた意欲付けをさせたい。日常的に様々な話をしている班員とのかわりの中で制作に向けた自分のおもいを再確認させ、他者からの意見やアドバイスの取捨選択により、さらに構想を深めることにより意欲的・主体的な制作活動をさせたい。今まさに生きているあるがままの自分についてのおもいをふくらませ、輝いている自分、輝こうとしている自分、もがき苦しみながらも困難から逃げずに頑張っている自分、あきらめず自己の課題を乗り越えようとしている自分をイメージさせ、「自分とは何か」「自分はどのような自分か」「自分はどうしたいのか」自問自答の中で自己の再確認となる自画像を描かせたい。

5. 指導と評価の計画(別紙)

6. 本時の達成目標

美術への関心・意欲・態度	自分自身と向き合い、自画像を描くことに興味を持ち、自分をより深く知ろうとするために、自分の内面をとらえることに関心をもとうとする。
発想・構想の能力	自分が伝えたい心情や表情を考え、主題を明確にし構想(文章・アイデアスケッチ)をまとめることができる。
創造的な技能	自分の表現意図にふさわしい色調やイメージを考え、表現方法を工夫し彩色をすることができる。
鑑賞の能力	友達の作品を鑑賞して、お互いの表現の良さや参考にしたいこと気づき、さらに表現を高めるために積極的に意見交換やアドバイスができる。

7. 本時の指導の構想

(1) 指導構想および留意点

本時は、構想作文から表現意図をまとめ、アイデアスケッチ、デッサンから下絵、意図に迫る彩色の追究を経て本制作の仕上げ段階にあたる。完成に向けた加筆の段階で、生徒個々ががかかえている課題は様々であるが、その多くは表面的な全体の色調、配色や背景の工夫等である。しかし、作品の多くは表現意図が伝わる作品としては表現が不十分である。また、陰影や肌の表現などについても対象の観察の視点を再確認させて更に追究させたい。そこで、本時の導入段階では、自己作品の課題を把握させる視点を持たせるための作品例を示す。その後、意図的に小グループによる相互鑑賞の場面を設定する。その中で、「表現意図に迫るための工夫にはどのようなことが考えられるか」ということを中心に、意見交換をさせ個々の課題解決のための糸口をまたせ、後半に表現意図に近づく工夫を考えた彩色活動に取り組みせたい。

(2) かかわり合いを生かす手だてについて

本時の導入段階の初めに、学級全体に対して生徒作品の一例を提示しその表現意図を推測させる。この作品例は、それぞれの生徒が抱えている課題解決の方法を検討させる動機づけとなるものである。次に実際の作者の表現意図を発表させ、自分たちが予測した表現意図と作者の思いとの違いから、表現意図に迫る工夫にはどのようなことが考えられるか意見を述べさせ学習課題の共通化を図りたい。そして、展開前半ではこれらを基に、3~4人一組の相互鑑賞会を設定し、相互の作品を鑑賞するとともに、それぞれの表現意図と現在の課題を発表し合い、相互の作品に対する根拠のある感想や意見、アドバイスの中でおもいの交流・表現技法の学びあいをさせる。このようなかかわり合いから、作品完成に向けた自己課題を確認させ、その解決に向けた意欲ある表現追究へと結びつけたい。

段階	過程	時間	学習活動	評価の視点・方法	指導上の留意点	資料・教具等
導入	課題設定	6分	<ul style="list-style-type: none"> ・学習準備ができています ・元気に挨拶ができる ・前時の学習内容を想起する <p>1 参考作品を鑑賞し、表現意図に近付ける工夫を考える</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <p>相互鑑賞を通して表現を見直し、より表現意図に近づく工夫を考え制作に生かそう</p>	<p>1 [関心・意欲・態度]</p> <p>自画像の表現意図と現時点での課題を発表できる。</p> <p>指名による発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推測される表現意図 ・作者の表現意図 ・アドバイスについて 	<p>1 参考作品から表現意図を推測させ、表現意図に近づくためのアドバイスをさせる。</p> <p>2 自己の作品を見直し、表現意図が十分伝わっているか考えさせ、本時の学習課題を把握させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現意図 ・表現工夫の検討 	<p>各自の作品 学習の道しるべ 参考作品</p> <p>紙板書</p> <p>表現意図を推測しよう</p> <p>この作品の表現意図は「表現意図」</p> <p>表現意図に近付けるためのアドバイスは</p>
展開	課題追求	36分	<p>3 小グループで相互の作品鑑賞を行い、表現意図に近づく工夫や感想などについて話し合う。</p> <p>4 教師の説明を聞き、グループ内で解決できなかった課題や様々な技法について理解し今後の制作の見通しをもつ。</p> <p>5 相互鑑賞で確認した課題解決の見通しを基に、表現意図の追究へ向けた制作をする。</p>	<p>3 [発想・構想]</p> <p>・相互鑑賞を通し、色調や背景、技法などの表現の工夫から作者の表現意図を感じ取るとともに、自分の表現意図が他者にどのようにつながっているか、見直すことができる。</p> <p><記述内容・発表内容></p> <p>A ;既習事項を活用して多様な見方で・根拠を示して分かりやすく説明</p> <p>C ;自分が表現したい表情や思いを構想作文から読み取りまとめる。</p> <p>5 [技能]</p> <p>・友達の作品のよさや工夫している点を学び、自らの作品の修正や加筆すべき点を明確にし、意図に合った彩色を追求することができる。</p> <p><作品></p> <p>A ;自分の表現意図に合った表現技法を工夫して</p> <p>・課題を明らかにして彩色を追求</p> <p>C ;観察の視点を与え表現意図にそった色調や背景のイメージを想起させ混色の仕方や筆づかい(筆勢など)の方法を具体例で示し実際に描けるように個別指導をする。</p>	<p>3 4人グループで、相互鑑賞の場を設定し意見交流をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現意図に近付けるための工夫について根拠をもって話し合いをさせる。 ・他者の作品のよいところ参考にしたいところを確かめ合う。 ・生徒だけで課題解決の見通しが立たないような場合は、机間指導で具体的な支援をする。 <p>相互鑑賞に参加せず、自分の意見を、根拠を持ってまとめることができていない生徒には、再度構想作文から検討させ、表現意図を再確認させ制作の意欲付けを行う。</p> <p>相互鑑賞から自分の作品に生かす工夫やよさを確認せず完成の見通しを持っていない生徒には、指導者が自他の作品の違いを指摘しその違いをみつけさせる。</p> <p>4 共通する制作上の課題について学級全体に作品例をもって示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動着の表現 ・肌の表現 <p>5 相互鑑賞等から自己の作品に立ち返らせ、修正・加筆すべきところを明らかにさせ完成に向けた制作をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒相互のかかわりあい ・生徒と教師のかかわりあい <p>課題をしっかりとらえ、その生徒らしさが表現されている個人的な作品を選んで評価する。</p>	<p>紙板書</p> <p>「相互鑑賞について」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 約束 2 進め方 <p>作品例 2点</p> <p>鏡</p> <p>水彩絵の具</p> <p>アクリル絵の具</p> <p>パステル ほか</p>
終末	まとめ	8分	<p>6 学習を振り返り、本時での成果と課題をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の道しるべへの記述 <p>7 次時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元氣よく挨拶する ・協力して後片付けする 	<p>6 [関心・意欲・態度]</p> <p>課題解決の見通しを持って意欲的に制作に取り組むことができたか。</p> <p>学習の道しるべ</p>	<p>6 学習の道しるべに本時の成果と課題を記述させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指名による発表 	<p>学習の道しるべ</p>

3年 美術	単元(題材)名 自画像「十五歳の私」		総時間 14 時間扱い			
<p>学習指導要領の指導事項</p> <p>A 表現</p> <p>(1) 絵や彫刻などに表現する活動を通して、次のことができるよう指導する。デザインや工芸などに表現する活動を通して、次のことができるよう指導する。</p> <p>ア 対象を深く見つけ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情など心の世界をスケッチに表すこと。</p> <p>イ 主題を発想し、スケッチなどを基に想像力を働かせ、単純化や省略、強調、構成の仕方、材料の組合せなどを工夫し、心豊かな表現の構想を練ること。</p> <p>ウ 日本及び諸外国の作品の独特な表現形式や構成、技法などに関心をもち、自分の表現意図に合う新たな表現方法を研究するなどして創造的に表現すること。</p>						
単元の目標	主な学習活動	評価規準	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<p>自分自身と向き合い、深く自己の内面を見つめて、思いや願いを自分なりに最もふさわしい方法により、構図や色調を工夫して個性的な自画像をめざす。</p>	<p>谷川俊太郎の「生きる」の詩を鑑賞し、今の「自分」を見つめ、どう自分表現したいかをまとめる。</p> <p>二人の画家(ゴッホ、レンブラント)の晩年の自画像を鑑賞する中で、彼らの絵に対する情熱や思いについて理解を深める。</p> <p>「十五歳の自分」という題で構想作文を書き、その中から表現意図を決定する。</p> <p>表現意図を生かした下絵づくりをする。</p> <p>表現意図をもとに全体の構図や色調のバランスを考えながら彩色する。</p> <p>相互鑑賞をもとに、自分の作品の修正、加筆すべき点を確認し、彩色活動を進める。</p> <p>完成した作品を鑑賞する。</p>	<p>B = 「おおむね満足できると判断される状況」</p> <p>A = 「十分満足できると判断できる状況」の例</p> <p>C = 「努力を要すると判断される状況」の生徒への指導の手だての例</p>	<p>生きることについて夢や目標、願いを持ち、自分という対象を深く見つめることに関心をもちようとする。</p> <p>「生きる」の詩の中に込められた作者の思いを感じ取るとともに、今生きている自分の意味や価値について自分なりの考えを進んで発表することができる。</p> <p>「生きる」の詩の中に込められた作者の思いを感じ取り発表することができるよう、作者の生い立ちや時代背景、その他の代表作について触れ、指導する。</p>	<p>対象となる自分の内面を深く見つめるとともに、夢や目標、願いを持って主題を発想し、表現意図を持って構想を練ることができる。</p> <p>生きることの意味や価値について深く考えながら構想作文を書き、その中から主題を発想し、表現意図を決めることができる。</p> <p>表現意図を明らかにするために、日常生活の中から、興味や関心のあることを想起させながら構想作文が書けるよう指導する。</p>	<p>これまでの美術の学習を生かしながら、表現意図にもとづく構図や表情・ポーズなどを工夫して、下絵を描くことができる。</p> <p>これまで学習してきた彩色の多様な表現や技法の中から意図に合ったものを選択したり、組み合わせたりして、創造的に彩色することができる。</p> <p>友達の作品を鑑賞する中で、よさや工夫している点を認め合い、その活動の中から自分の作品の修正、加筆すべき点を確認し彩色を進めることができる。</p> <p>表現意図をもっとも効果的にあらわす方向や姿勢、背景を工夫しながら表情を生き生きと描くことができる。</p> <p>表現意図の実現のため、色調やタッチを工夫しながら、独創的に彩色することができる。</p> <p>友達の作品のよさや工夫している点を学び、自らの作品の修正や加筆すべき点を明確にし、意図に合った彩色を進めることができる。</p> <p>表現意図に合った下絵を描くことができるよう、これまでの描画の学習を想起させながら、ポーズや表情・構図について個別に指導する。</p> <p>表現意図に合った彩色ができるよう、参考作品を提示しながら、色調やタッチについて理解させる。</p> <p>自らの作品の修正や加筆すべき点を明らかにするために、表現意図を再確認させ、個別に彩色の方向性を指導する。</p>	<p>二人の画家の自画像を鑑賞する中で、そのよさや美しさ、自画像に込められた作者の思いや情熱を独特な表現方法などを理解し感じ取るようとする。</p> <p>鑑賞活動を通して、友達の作品のよさや表現の工夫を感じ取り、発表することができる。</p> <p>二人の自画像の表現方法(色やタッチの工夫)のよさや違いを理解するとともに、作者の表現意図についても自分なりの考えを発表することができる。</p> <p>感性や想像力を働かせて、自分の見方や感じ方で仲間の作品の意図や表現の工夫を感じ取り、発表することができる。</p> <p>二人の自画像の表現方法のよさや違いについて気づき発表することができるよう、色やタッチを比較しながら個別に指導する。</p> <p>自他の作品のよい点、工夫している点を具体的に示すことによって、自分なりの意見や感想がもてるよう指導する。</p>

段階	時	主な達成目標	主な学習活動	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1	1	・さまざまな作品を通して、作者（画家）の生き方やその姿勢に関心を持ち、作者（画家）の個性や人間性を捉えようとする。	谷川俊太郎の「生きる」の詩を鑑賞し、今の「自分」を見つめ、どう自分自身を表現したいかテーマを文章でまとめる。	・自画像を描くことで、自己と向き合う姿勢をもち、自己の内面性を見つめようとしている。			・画家や先輩の自画像の表現の多様性に気づき、作者の思いや意図を感じ取り自分なりの言葉でまとめることができる。
2	1	・自分自身と向き合い、自画像を描くことに興味を持ち、自分をより深く知ろうとするために、自分の内面を捉えることに関心をもとうとする。	画家の自画像を鑑賞する中で、彼らの絵に対する情熱や思いについて理解を深める。	・対象を観察することを大切に、表情や動きの変化をとらえて自己の内面の動きを見ようとしている。			・二人の画家の自画像の表現方法の違いやよさに気づき、発表することができる。
3	1	・自分が伝えたい心情や表情を考え、主題を明確にしようと構想を練ることができる。	十五歳の私（自分）」という題で構想作文を書き、その中から表現意図を決定する。		・自らの夢や目標、願いをもとに構想作文をまとめ、今の自分の思いや気持ちを表現意図としてまとめることができる。		
4	3 (本時 3/3)	・自分の表現意図にあった構図や色彩のイメージを考え、工夫して下絵を描くことができる。	表現意図を生かした下絵を描く。		・表現意図にあった彩色の見通しをもつことができる。	・表現意図をもとに、画面全体のバランスを考えながら下絵を描くことができる。	
5	6 (本時 6/6)	・自分らしさが表れるように、ポーズを工夫したり、材料の特性を生かしたり、表情豊かに描くことができる。 ・水彩絵の具の様々な技法を生かして、細部にこだわらずに自分らしい表現方法を工夫することができる。	表現意図をもとに全体の構図や色調のバランスを考えながら彩色する。			・顔や光の方向から、陰影や立体感をとらえて、自分なりに感じている色調を明確にして描くことができる。 ・表現意図にあった色調やタッチ、筆勢を考えながら工夫した彩色を進めることができる。 ・重色や混色を使い、全体の色調を自分らしいものにしようとしている。	
6	1	・自他の作品の表現の工夫を鑑賞して、そのよさに気づき、他者と違う表現が大切なことを理解する。	相互鑑賞をもとに、自分の作品の修正、加筆すべき点を確認し、彩色活動を進める。			・友達の作品のよさや工夫している点を学び、自らの作品の修正や加筆すべき点を明確にし、意図に合った彩色で仕上げるすることができる。	
7	1	・画家や自他の作品を鑑賞し、作者の心情、表現の多様性やその違いを感じ取ることができる。	完成した作品を鑑賞する。				・友達の作品のよさや工夫していることについて、自分なりの意見や感想を文章でまとめることができる。